

市内観光

(バスは満席である。だが二人の観光ガイドはまだ、左に進むか右に進むかで揉めている)

リースル・カールシュタット さあ、皆様、市内観光を始めましょう。こちらに見えますのはヴィッテルスバッハ噴水でございます。豊饒かつ破壊的な水の力を表現しております。

カール・ファレンティン この噴水はご覧の通り水つばい印象を与えます。

L K 先へ参りましょう。こちらはシラー記念碑でございます。

K V ヴォルフガング・シラー、ファウスト悲劇で有名な詩人であります。

望遠鏡の発明により星について私たちの理解を深めてくれました。というのも、今日、速記がなかったらどんなことになっていたでしょうか。

L K 右手、いくらか左寄りですが、裁判所でございます。

K V ここで、審理、おもに婚姻の解消がなされます。

L K 次はシュタッフス広場とカールス門に参ります。カールス門はこの中世都市の西の門で、十四世紀に建てられました。バイエル通りを西側に進みまして、中央駅に参りましょう。

K V 中央駅は外人旅行者のメッカであります。

L K これからバイエル通りをテレージエンヴィーゼまで参ります。毎年九月にオクトーバーフェストが催される場所でございます。テレージエンヘーエの上に、ここからバヴァリア像と偉人堂がご覧になれます。ルートヴィヒ一世が、市の全域を一望できるあの場所に、バイエルンの象徴像を建てたのでございます。クレンツェの手になる偉人堂が周りを囲んでおります。

K V 女神バヴァリアは硬いブロンズ製で大柄というよりはのっほです。

L K さて、今、私たちはリントヴルム通りをゼンドリンガー門広場へと向かっております。ゼンドリンガー門は十四世紀からのもので、ほとんど昔の姿を保っております。

K V ゼンドリンガー門という名前は五百年前に、ゼンドリングに行く時にはこの門を通らなければならなかったところから、つけられたということです。

L K 今、私たちはゼンドリンガー通りを通って、聖ペーター教会にやって

参りました。これはミュンヘンで一番古い教会で、一一八一年に建てられたものでございます。

KV ペーター教会の塔からは大空に向かってすばらしい眺めが開けています。

LK マリーエン広場へと参りましょう。ここはミュンヘンの経済生活の中心地でございます。マリアの柱像はマクシミリアン選帝侯によって一六三八年、ヴァイセンベルクの勝利を記念して建てられたものでございます。

KV マリーエン広場建設の定礎式は一四一二年、午後二時半に行われました。右手の下には、七年毎に桶屋踊りが催されるフィッシュ噴水があります。

LK この、目の前にありますのは新市庁舎でございます。ハウベリッサーによるゴシック建築でありまして、一九〇八年に完成いたしました。塔は時計台になっております。鐘と踊る人形のついた美術時計でございます。左手は聖母教会でございます。ミュンヘンで最大の教会ですが最古ではありません。イェルク・ガングホーファーによって十五世紀に建てられました。その独特の丸屋根はミュンヘンの象徴になっております。

KV 右の塔は左のの隣に立っています。

LK さて、今、タールからイーザル門に向かっております。これは中世のミュンヘンにおける東の門でありまして、一三一四年にできました。壁のフレスコ画はミュールドルフの戦いの後のルートヴィヒ帝の入城を描いております。KV ルートヴィヒ帝は当時、この入城の際にひどい頭痛に悩まされていたということですが、群集に盛大に迎えられました。白衣の少女たちが鎮痛剤ピラミドンを一箱、皇帝に謹呈いたしました。

LK ツヴァイブリュッケ通りを抜けてコーレン島に参りました。この島には図書館の新館が建てられました。

KV これを世界でもっとも美しい建物だと言明する人もおります。

LK 博物館の向かい側にありますのは、ミユラー民衆浴場でございます。一九〇一年にバロック様式で建てられたこの民衆浴場は一ミュンヘン市民が寄贈したものでございます。

KV…この中に設置されております浴槽での水泳は警察の命令によって禁止されております。

LK こちらはマクシミリアネウムでございます。イーザル川東岸にマクシミリアン王によって建てられた教育施設でありまして、現在は絵画館になっております。

KV ミニ・マキシ・リノリウムです。ここは夏には緑の木々によって縁どられ、冬には深い雪に覆われます。この中におります管理人は去る木曜日にミニ・マキシ・リノリウムにおける彼の二十五周年記念日を祝いました。

LK イーザル川の流れに沿って進みましょう。右手に平和の天使像が見えて参りました。摂政宮通りの堂々たる終点でございます。

KV この金色の平和の天使像は^{エルツ}ブロンズ製です。いわば、平和の^{エルツ}大天使像であります。世界大戦中、この天使があその上で何をしていたかはまったく不明です。摂政宮橋の下には流れを下って泳いでいるイーザル川をご覧になります。

LK バスは新民族博物館にやって参りました。一九〇〇年にガブリエル・フォン・ザイトルによって建設されました。この博物館は珍しい品々を取りそろえて、バイエルンの芸術品、工芸品の歴史を展示しております。

KV 民族博物館の職員はいつでも無料で入場できます。

LK ここで英国庭園の中に入って行きましょう。かつてのイーザル河岸の低地が最後の選定侯によって大公園に作り変えられたものでございます。

KV ここでは木々と、まさにあのような遊歩道をご覧になれます。その丘の上にはモノプロテロス展望台が見えております。下からはこれを見上げることができず、上からはそうはできません。

LK こちらはもっとも美しい滝の一つでございます。

KV これはナイアガラ瀑布の情けない模倣です。

LK だんだん中国塔が近づいて参りました。

KV この塔は下が大きく、上に向かって四段階で小さくなっております。英国庭園の中央にはクラインヘッセローア湖があります。この湖には歩行者は入ってはいけません。

LK 英国庭園を後にして、ファイリツチュ通りを抜け、シュヴァーピングを走っております。新しい眺めが開けて参りました。凱旋門でございます。こ

れはルートヴィヒ一世によって造られたルートヴィヒ通りの終点の建造物でありまして、ローマのコンスタンチン凱旋門を模倣したものでございます。

KV 四頭の獅子を連れた勝利の女神は門の上に置かれました。道路に出ていると交通の障害になる恐れがあるからです。

LK 豪壮なルートヴィヒ通りに沿って將軍堂にやって参りました。ここがルートヴィヒ通りの市の中心側の終点でございます。左手が宮殿。広場の中央にはマックス王記念像がございます。その後ろは国立劇場。南ドイツにおける代表的な歌劇場でございます。リヒャルト・ワーグナーの多くの作品がここで初演されました。建てられたのは十九世紀初頭でございます。

KV ゲルトナープラッツ劇場で買った入場券は国立劇場では無効です。

LK マクシミリアン通りを少し東へ進みましょう。そして右折しますと、目の前に芸術都市ミュンヘンの象徴、ホーフブローハウスがございます。

KVとLK では、呼びかけてみましょう。一、二、三、はい、飲んだくれども！